

引き揚げられた藻に付く黄金色のモジャコ 25日、種子島沖



ブリの稚魚「モジャコ」の漁が種子島、屋久島の近海で始まっている。25日は晴天に恵まれ、日の出前に20隻以上の漁船が種子島西岸の各港から出発。モジャコが付いた藻を求め、両島の間の海域で何度も網を広げては引き揚げている。

県産養殖ブリの種苗に

末。今年は低水温が続ぎ、実際の操業は屋久島が18日など遅れて始まった。例年4月にピークを迎える春の風物詩は体力的に過酷な漁でもある。西之表市の奥村洋海さん(54)はモジャコ漁25年のベテラン。昨年は期間中に約70

0匹を捕った。「3月は量が少ないが、最初にふ化した『一番子』は生命力があると話す。養殖業者に好まれる」と話す。種子・屋久や長島が主な漁場で、鹿児島県が生産量日本一を誇る養殖ブリの種苗に使われる。5月前後になるまで、2年ほど育てて出荷する。2025年は県内10漁協で計74万4千匹を採捕する計画。24年は計画に対する充足率が92%だった。

春告げるモジャコ漁 種子・屋久近海

【問1】モジャコは、何の稚魚のことをいうのでしょうか。

【問2】モジャコの漁が始まっているのは、どこの近海でしょう。

【問3】鹿児島県水産振興課によると、漁の許可期間は、いつからいつなのでしょう。

【問4】今年の実際の操業が遅れたのはなぜでしょう。

【考えてみよう】モジャコが大きくなるとブリと呼ばれるように、成長につれて呼び名が変わる魚を「出世魚(しゅっせうお)」といいます。ほかにどんな出世魚がいるか、調べよう。

むずかしい漢字とことば

稚魚(ち・ぎょ) 屋久島(や・く・しま) 恵(めぐ)まれ 隻(せき) 藻(も) 海域(かい・いき) 網(あみ) 引(ひ)き揚(あ)げ 振興(しん・こう)＝ものごとをさかんにすること。また、さかんになること。許可(きょ・か) 実際(じっ・さい) 操業(そう・ぎょう) 遅(お)くれて 迎(むか)える 過酷(か・こく) 西之表(にし・の・おもて) 捕(と)った 養殖(よう・しょく) 誇(ほ)こる 種苗(しゅ・びょう)＝植物のたねと、なえ。水産分野では、養殖や放流に用いる魚介類(ぎょ・かい・いりい)のこどもを指す。匹(ひき) 採捕(さい・ほ)＝自然に存在する動植物をとること。充足率(じゅう・そく・りつ)